

[月刊] キリスト教書評誌

# 本のひろば

出会い・本・人

本と人生 菊地 順

本・批評と紹介

R.N.ワイブレイ 著/加藤久美子 訳  
ニューセンチュリー聖書注解  
コヘレトの言葉 小友 聡

村上 伸 著  
良き力に守られて 山本裕司

宮本久雄、武田なほみ 編著  
女と男のドラマ 石井智恵美

ネヴィル・タン 著/金本美恵子 訳  
7172 廣瀬 薫

齋藤孝志 著  
キリストの体である教会に仕える  
小林重昭

岡田 明 作/みなみななみ 画  
タイムっち 久保木 聡

F.W.ダブス=オルソップ 著/左近 豊 訳  
現代聖書注解  
哀歌 小友 聡

大宮 溥 著  
十字架と復活への道 松本敏之

アウグスティヌス 著/金子晴勇 訳  
アウグスティヌス著作集別巻I、II  
書簡集(1)、(2)  
出村和彦

塩野和夫 著  
キリスト教教育と私 前篇 中根広秋

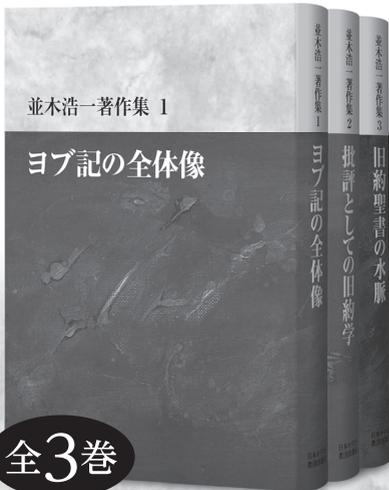
近刊情報

書店案内

9 SEPTEMBER  
2013



# 旧約聖書は今、私に何を語るのか—— この問いに生涯をかけてきた旧約学者の集大成



## 並木浩一著作集 1 ヨブ記の全体像

本巻ではヨブ記論をまとめ、全体像を意識し、丁寧に読み解く。苦難の思索が鮮明に浮かび上がる。

◆A5判 上製・338頁・4,200円

続刊予定

第2巻 批評としての旧約学  
▶2013年12月中旬刊行予定  
第3巻 旧約聖書の水脈  
▶2014年春刊行予定

全3巻

# 信仰生活の手引き 礼拝

なぜキリスト者は主の日に礼拝に集うのか。キリスト者の生命線である礼拝の意味を明快に描き出し、信仰者としての確かな成長を促す。

◆四六判並製・160頁・1,695円



越川弘英

第4回配本

# みんなで礼拝 アイデア集

「こどもさんびか改訂版」を用いて

礼拝アイデア集プロジェクト 編



子どもと共に心を合わせて礼拝をささげるためのアイデア集。「教会の一年を通して」「礼拝の流れにそって」恵みある礼拝を提案。

◆B5判並製・80頁・1,680円



## 出会う・本・人 本と人生——菊地 順

私が最初に本に出会ったという経験をしたのは、小学3年ごろ、学校の図書館でポプラ社から出ていた『木の工作』、『おもちゃの作り方』、『模型の作り方』に出会った時でした。私はこの三冊がとても気に入って、何度も借り出しましたが、ついには買ってもらった思い出があります。それ以外にも、小学校時代には、家にあつた少女世界名作文学全集の中の『三銃士』とか『紅はこべ』とか『南総里見八犬伝』などを繰り返し読んで思い出があります。また中学に入ったころ、父の書齋にあつたイブセンの『人形の家』を読んだのも思い出の一つです。

いわゆる専門書を読むようになったのは、大学に入って宗教学を専攻してからです。今までの歩みを振り返ってみると、それは三つぐらいの世界に分けられるように思います。一つは、指導教授の薦めで読み始めたパウロ・ティリツヒの世界です。ティリツヒは体系的で、さまざまな分野にまたがる広さがありますが、それだけではなく、思想的にも西洋思想を背景とした厚みがあり、ティリツヒからは幅広い知識と共に思想を見る目を与えられました。特に、アウグスティヌス、アシジの聖フランシスコ、ルター、そしてティリツヒといった思想の流れに目を開かれ、その世界に親しむようになりました。

中でも、聖フランシスコは、私の心を深く捉え、私の親しむ第二の世界となりました。何よりも清貧を通してキリストと一つであらうとしたその生き方に惹かれました。また、もともと絵が好きだったこともあり、聖フランシスコの生涯を描いたジョットの世界にも深く魅せられました。その背景には、中学3年間カトリックの学校に通い、毎朝カトリックの「主の祈り」を唱え、十字架を切った経験が大きかったかもしれませぬ。

三番目の世界は、マーティン・ルーサー・キングの世界です。キングに関心を持つようになったのは、キングの出生地であるアトランタに留学してからです。キングを記念するキング・センターなどを何度か訪れる中で、次第にキングへの関心を深めていきました。今では、私の研究分野の一つとなっています。

振り返ってみると、書物を通して、いろいろな人たちの生き様に出会ってきたように思います。そして、その出会いの中に、その時々自分の歩みが重なっていたことに改めて気づかされます。これからも、そうした本との出会いを大切にしていきたいと思えます。

(きくち・じゅん) 聖学院大学チャブレン、教授

穏やかに波風を立てる第一級のコヘレト注解  
R・N・ワイブレイ著  
加藤久美子訳

## ニューセンチュリー聖書注解 コヘレトの言葉



小友 聡

『NCBCコヘレトの言葉』が刊行された。本書は、日本でもその名が知られている英国の旧約学者R・N・ワイブレイが執筆した「コヘレトの言葉」注解の翻訳である。原書は一九八九年の出版で、すでに四半世紀が経つが、穏健で鋭い神学的洞察を含むこのコヘレト注解は今日でも研究者には定評がある。評者も一九九〇年代後半にドイツでコヘレト研究の学位論文を執筆する際にはこの注解書にお世話になった。今回、加藤久美子先生のすぐれた翻訳で読めるようになったことを喜ぶ。

著者R・N・ワイブレイは英国の旧約聖書学の重鎮で、一九八八年に七十五歳で没した。彼の著作はすでに幾つか翻訳されており、特に山我哲雄訳の『モーセ五書入門』が知られている。日本でワイブレイの名が知られている大きな理由は、彼が一九五二年から六五年まで十三年にわたり東京の聖公会神学院の教授を務めたからである。その後帰英して、すぐれた旧約学の研究書を次々に刊行した。知恵文学の研究領域、とりわけ箴言の研究においてワイブレイは世界的権威であり、ケンブリッジ旧約注解『箴言』は邦訳でも読むことができる。

を解釈する学者は稀であった。後に、ワイブレイは箴言の知恵がエジプトの「アメンエムオベトの教訓」には由来しないという驚くべき説を唱えたが、それもまた彼の知恵文学解釈の特徴であった。学界では「穏やかに波風を立てる」ワイブレイの真骨頂が本書の中にも滲み出ていると言えるだろう。

本書の第三の特徴は、コヘレトの思想的な一貫性と構造について消極的に説明されるということである。これは、本書の問題点として指摘されてよい。一九八〇年代以降、ローフィンクのほか、シアウ、シュヴィーンホルスト・シェーンベルガー、クリューガーらによってコヘレトの言葉の構造的な一貫性と統一性が認知されるようになった。もしワイブレイが存命ならば、本書は大幅に書き直されたかも知れない。また、黙示との関係やクムランの知恵文書との関係についても書き加えられたらどうか。

本書の翻訳は信頼しうるものである。ヘブライ語のカタカナ

本書はその知恵文学の権威ワイブレイが渾身の力で執筆したコヘレト注解である。御承知のとおり、旧約のコヘレトの言葉は極めて難解な書である。この書をどう理解し、どう解釈するかについて研究者の間で見解の大きな開きがある。ワイブレイの注解は一九八〇年代のコヘレト研究史を反映して書かれている。特に英語圏のゴルデイス、クレンショウ、オグデン、ドイツ語圏のガリンク、ヘルツベルク、ラウハ、ツインマリ、ローフィンクなどと対論をし、また一九七〇年代に注目されたヘンゲルやクリューゼマンなどの社会的研究をも取り入れている。本書におけるワイブレイのコヘレト解釈の特徴は、まず第一にマソラ本文に信頼し、慎重にテキストを扱うことである。第二の特徴は、旧約の伝統の中でコヘレトを理解しようとする点にある。コヘレトの神概念は歪んでいる、と多くの研究者が指摘する中で、ワイブレイはそれがあくまで旧約に固有の神概念に由来するものと見る。それはまたコヘレトの知恵は基本的にイスラエル以外の知恵に依存しないと本書で説明されることも関係している。一九八〇年代にそのようにコヘレトの言葉

表記にも細心の注意が払われている。訳者の加藤久美子先生は旧約知恵文学の研究者であり、本書の翻訳者として最もふさわしい方である。訳者の後書きには、最近のコヘレト研究史的に正確に纏められていて有益である。その後書きの中に、著者ワイブレイが英国の紳士であったという印象深いエピソードが訳者の思い出として紹介されている。ワイブレイは本書の中でコヘレトの女性観を否定的には説明しない。そのコヘレト解釈の中に英国紳士の誠実と寛容が滲み出ていると評者は密かに思った。本書はコヘレトの言葉の注解書として今後、最も信頼しうるものになるに違いない。すぐれたコヘレト注解書として本書を推薦する。

(おとも・さとし) 東京神学大学教授、日本基督教団中村町教会牧師  
(A5判・三〇四頁・定価四八三〇円(税込)・日本キリスト教団出版局)

著者が最後まで心を傾けた『礼拝と音楽』連載を単行本化

**バッハ万華鏡** 川端純四郎

時代の激流に生きた教会音楽家

教会史や神学の視点からバッハを探索し続けてきた著者が、綿密な資料調査を元に分かりやすく語りかける、教会音楽家バッハとその周辺、著者の遺稿を緊急出版。

A5判・210頁・2730円

好評発売中

**J. S. バッハ**  
一時代を超えたコントロール

川端純四郎

A5判・306頁・3,570円

愛とユーモアに溢れるメッセージ本

**人生、一步先は光**  
はるな牧師のマンガ説法

春名康範 四六判・216頁・1,890円

読み返すたびに、深く心に沁み入り、新しい元気が与えられる四コママンガと温かいメッセージが、ハンデーになって再登場。

新装版

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格税込)  
<http://bp-uccj.jp>

戦後日本の教会を主導した、志を受け継ぐために

村上 伸著

### 良き力に守られて 一牧師の歩んだ道



山本裕司

私たち戦後生まれの小さな牧師たちの上層に、質量ともに分厚い牧師群が存在している。多感な少年期に敗戦という大変動に遭遇し、それだけに「確かさ」を求め、教会を発見、献身していった世代、戦後教会のあり方を模索し、日本に於ける二十世紀神学の受容受肉に邁進した一群である。今、その先達が次々に第一線を退かれ、神のもとにお帰りになる時代を迎えた。遅れて来た私たちはその志を受け継ぎ、二十一世紀の混沌の中にあるこの世と教会に改めて仕える決意をしたいと願う。一九三〇年生まれ著者の「自伝」である本書はその良き手引きとなるであろう。

一九四五年夏、村上伸少年の陸軍幼年学校は焼夷弾攻撃の標的となり、一夜の空襲で十一名の生徒が死に、遺体を校庭で茶毘に付すという過酷な経験をする。「行くべき場所」を失った著者は「不逞浪人」と埼玉の山奥で暮らし(後の、バルト著『キリスト教倫理Ⅲ 生への自由』、ボンヘッファー獄中書簡集『抵抗と信徒』の記者、現代キリスト教倫理入門『あなたはどうか生きるか』の著者は、この時、密造ウイスキーのレットル描きをしていた!、

りようではない。それを超えて神は、真実である! この言葉によつて村上伸学生は立ち直った。また著者は東神大時代、駒込教会(西片町教会)に通ったが、そこで鈴木正久牧師との決定的な出会いを得、師の薫陶の中バルトや説教に取り組み。卒業後、安城での開拓伝道、さらに岡崎教会へと伝道場を移すが、その関心は常に「教会がイエス・キリストに従って生きる」とはどういうことか? 「それは、今、この社会の中で、具体的に、いかなる形を取るべきであるか?」に尽きた。その一つの心えとして教団総会議長・鈴木正久名で公表された『戦責責任告白』に触発され、苦しい経緯の末、岡崎教会独自の『わたしたちの告白』とその「解説書」を発表する。「教会が神の前で悔い改めてこそ、真に教会を教会たらしめることであると確信します」と。

さらに読者が感動するのは、著者にとつては神学と生き方が乖離しないことだ。例えば先に引用した「不逞浪人」との生活

## 聖公会出版

— 近 刊 案 内 —

### イギリス人の宗教行動

ウェールズにおける国教会制度廃止運動  
著●木下智雄 (A5判・上製 3・500円)

十六世紀後半の宗教改革以降、国教会制度は近代英国の形成に重要な役割を果たしてきた。しかし、近代に入ってからこの制度は非国教徒による宗教的平等実現要求により、ウェールズでは廃止された。本書では、ウェールズにおける国教会制度の発生からその実現まで多くの資料から跡づける。英国の宗教史の中で特筆すべきこの運動に関する本邦初の研究書。

### 二〇〇年の日本

真珠湾までの二〇年間  
著●オードリー・サンスベリー・トークス  
訳●松平信久・北條鎮雄 (四六判・並製 3,975円)

第二次世界大戦前の二〇年間を日本で過ごしたある英国宣教師一家の記録。彼は、戦前の日本のどかな田舎の暮らした様子から、その後の軍国主義の台頭、満州国建国など、世界と日本の政情などを詳細な日記に残した。本書によって、戦前戦中の日本人が見なかつた、真実の日本の姿を見ることが出来る。

### ほかに神があつたはななな

日本版インタープリテイション 第21号  
総合監修●月本昭男・大貫隆・西原廉太  
(A5判・2100円)

北米で60年以上の歴史をもつINTERPRETATION誌の日本語訳の最新刊がいよいよ刊行。唯一の神をテーマに現代の「偶像」と向き合う、意欲的論文を掲載。

只今定期購読申込受付中!

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682  
http://seikokai-publishing.jimdo.com  
naskk-bookshop@company.email.ne.jp

中、手伝いをしてくれた娘・トクちゃんの頬を伸少年は叩いてしまったことがあった。しかしトクちゃんはお優しく、心を揺さぶられた少年は「御免なさい」と詫言った。だが話はこれで終わらない。それから三十年以上も経った夏、村上伸先生は突然トクちゃんのことを思い出し、遠路埼玉へ赴き彼女との再会を果たすのだ。岡崎教会での「戦責告白」のための努力と、トクちゃんの所へ走る著者の行動は一つのことであることが分かる。長い人生、お辛いこともあったと拝察するが、しかし著者の明るさや、ユーモア、隣人に対する暖かい眼差しは一貫している。それは、著者のライフワークであるボンヘッファーが、刑死直前の獄中でなお「良き力にすばらしく守られて」とうたうことが出来た、神への絶対的信頼と共通する心から生じているのであろう。感慨無量!

(やまもと・ゆうじ) 日本基督教団西片町教会牧師  
(四六判・二〇〇頁・定価一八九〇円(税込)・日本キリスト教団出版局)

行き詰まり、やがて東奥義塾に転入した。その頃幼年学校教育とは逆の「敵を愛せよ」との聖句に感動、八戸柏崎教会・渡辺正牧師の説教を「渴ききつた砂地が雨を吸い込むように吸収し」クリスマスの早朝「生涯の宝の記憶」となる洗礼式に臨んだ。やがて「伝道者への志」を得たが逡巡した時、天空からの「死ねばいい!」との声を聞いて決心、「牧師なんかになつて食つて行けるか」と問われるが、今著者はこう答える。「牧師になつてからの五十年間、…その都度、道は開けた」、「何を食べようか」「何を飲もうか」…と…と言つて、思い悩むな(マタイ六・三〇)「この言葉を、一字、一句、言葉通りに信じる」と。これに呼応するように本書には「食う」話が多数出てきて殆ど「美味しい」との感嘆で終わるが、きりがないので割愛。一九四九年春、東京神学大学に入学した村上伸学生であったが、その後精神的危機に見舞われた。「神を信じる」と言っている自分が信じられなくなったのだ。その危機の瞬間、バルトの『ローマ書』と出会い、バルトが『信仰』(ピステイス)を『神の真実』と訳していることに気づく。問題は私の「信仰」の在

違いを越えて、違いのままに

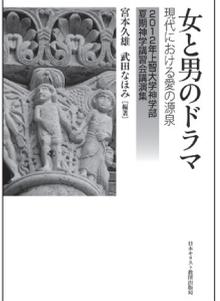
——信仰のバトスにおける女と男

宮本久雄、武田なほみ編著

## 女と男のドラマ

現代における愛の源泉

二〇一二年上智大学神学部夏期神学講習会講演集



女と男のドラマ  
現代における愛の源泉  
二〇一二年上智大学神学部  
夏期神学講習会講演集  
宮本久雄、武田なほみ編著

## 石井智恵美

「女と男のドラマ」とは、誰にとっても魅力的なテーマでありながら、なかなかキリスト教の中では、取り上げてこれなかったテーマではないでしょうか。神と人間、自分と他者という関わりについては、膨大な議論の積み重ねがあるのに、そこに「性」の次元が入ってくる「女と男」については、あまり論じられてきませんでした。その意味で、今回の企画は画期的であると思います。本書の中で「男であること・女であることは、信仰にとって本質的に問題とならないことなのである」（石島忠彦、九七頁）あるいは、「性差を越境するイエスの模範的弟子像としてのマグダラのマリア」（川中仁、四〇―四六頁）と性差を超越する立場を強調する人もいれば、「神の似姿として創造された人間が意味するのは、男女間の、そして神と人との間の『共同体性』です」（佐久間勤、一五頁）と、性差をそのまま肯定する立場の人もあります。キリスト者はやはりこの二つの立場で揺れ動くのではないのでしょうか。

神の前にどんな人間も平等であるという相対的な価値を超えた次元こそが、信仰の次元です。しかし、そこからかけがえの

ない一人一人の具体性を生き始める時、性を問題にせずに生きることにはできません。私達は、身体を持ち、性を持った存在として生きるのです。女も男も性的マイノリティの人々も。それは祝福であると同時に、葛藤と暗闇も生みます。性差ゆえの差別や抑圧は、現実には後を絶ちません。しかし、その光と闇の間を、信仰者は生きざるをえないのです。闇の中で迷った時には、普遍的な神の前の平等に立ち帰り、また、その祝福の世界だけにどまるのではなく、個別具体的な性差を持った人間として葛藤の世界の中で、「神の似姿」を協働して創りだしてゆく——私達は、この地上にある限り、このプロセスを繰り返してゆくのでしよう。だからこそ、このテーマは、繰り返し取り上げられるべきテーマなのだと思います。

「女と男のドラマ」という言葉で、現代の日本人がイメージするのは、まず、男女の恋愛でしょう。現代人は、男女の恋愛のエクスタシーや、その瞬間的な恍惚感に、つかのまの「聖性」を味わうのでしょうか。「あなたこそすべて」とそこにしか日常の脱出口はないかのように、消費主義的な枠に閉じ込められ

ている恋愛の「偶像性」こそが、問題だと筆者は考えます。男女の愛は、きらめくような純粋なものが現れると同時に、執着、妄執、自己中心的な欲望、愚かさや墮してゆく危険とも隣り合わせです。その点で、愛の源泉である神に基盤を置いた愛でなければ、空しいものとなる、という警鐘をならしている点でも、本書は評価したいと思います。

筆者は、第三部で、哲学者エディット・シュタインが、女性差別に直面し、さらに人間的な愛に挫折し、そのバトスを、神を探索する方向へと転換したこと、最後は修道者としてアウシユヴィッツの闇の中の光として生き抜いたことに、深い印象を覚えました。さらに、第四部文学からの思索も多く、このことを教えてくれます。山本周五郎の小説『寒橋』や、親鸞と恵信尼、良寛と貞心尼の愛、また近現代の日本の小説家たちの視点から、生身の女と男として同時に宗教者として生きる軌跡、市井の人々の生きる懸命さを学びました。

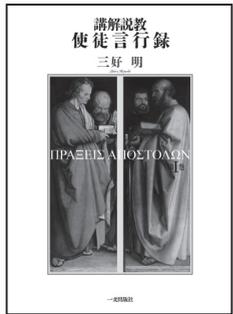
また、シンポジウムでのエディット・シュタインの女性論をめぐる須沢かおり氏と宮本久雄氏の対話が、「女と男のドラマ」の一つの頂点ではと思いました。男の中にも「女性性」があり、女性の中にも「男性性」がある。自我を減して他者を受け入れ、孕み、生みだし、はぐくむ人間の本质と、自我を中心にして目的を立て、困難を乗り越え、新しい次元を切り開いてゆく本質。その両者が調和してはじめて成熟した人間となるのではないのでしょうか。（「処女性」「母性」という言葉は、フェミニズムの学びから女性抑圧の価値観として批判されてきた概念ですので、その点の議論があるともっとよかったです。）光と闇の葛藤の世界の中で、性差を持つ存在として、互いに学び合い、尊重し合う根拠がここにあると思います。本書は、真摯にこの問いを問う信仰者にとって、様々な発見が満ちている書です。

（いしい・ちえみ）日本基督教団まぶね教会牧師、立教大学非常勤講師  
（四六判・二三六頁・定価二九四〇円（税込）・日本キリスト教出版局）



## 講解説教 使徒言行録

三好 明  
Akira Miyoshi



全三巻

### 聖書的・教理的・伝道的説教

第Ⅰ巻は、パウロの回心まで。  
第Ⅱ巻は、ペトロの異邦人伝道からパウロの第二回伝道旅行の終わりまで。  
第Ⅲ巻は、パウロの第三回伝道旅行からローマでの伝道まで。

四六判・上製  
定価＊Ⅰ3,780円／Ⅱ3,990円／Ⅲ3,570円



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

誰にも希望を発見させる本

ネヴィル・タン著  
金本美恵子訳

7172

「鉄人」と呼ばれた受刑者が  
神さまと出会う物語



廣瀬 薫

書名「7172」は、著者が凶悪犯を収容するチャンギ刑務所で服役した際の受刑者番号である。人生の道をひたすら堕ちて行った超凶悪犯罪者が、イエス・キリストに出会って救われたというストーリーから、本書にいわゆるセンセーショナルな内容を予想する方もあるかも知れない。しかしそうではない。

主人公である著者の筆致は冷静である。自分という人間を正直に正確に誠実に見ようとしている。だからその視線は、著者個人の特殊な体験を越えて、人間とはどういうものなのか、なぜ良い生き方をしようとしても出来ないのか、そのような人間への真の希望はどこにあるのか、という普遍的な課題に届いている。

そのため読者は誰であっても、自分の課題に引き寄せて本書を読むことが出来る。そして自分はどういうものなのか、なぜ自分が願う生き方が出来ないのか、そのような自分への真の希望はどこにあるのか、導きの光を見出せるだろう。本書は誰にも真の希望を発見させる本である。例えば私のように、クリス

チャンの教育機関に仕える者にも、多くの示唆を与えてくれる本である。

●著者ネヴィル・タンは、キリストに出会った者の心を教えてくれる。

読者は、凶悪犯罪者が一転してキリスト者になったという著者に、人々の注目を集める自己顕示を予想するかも知れないが、そのような印象は一切無く、実際はむしろ逆である。著者は神さまの前に謙遜であり、キリスト中心に物事を見ており、聖霊に委ねて生き続けていることが明確に表現されている。その自己イメージは、自分是他の人の救いのために、このような者でも救われるのだという「見本」（第1テモテ1・16）として憐れみを受けたのだというもので、正にパウロの思いと一致している。真にキリストに出会った者は、このように神にのみ栄光を帰し、へりくだった喜びに満たされるものなのだ、私たちは澄んだ思いに導かれる。

●御言葉には人を活かす力があることを教えてくれる。

著者は独房の中で、生ける神さまがなされる奇跡的な出来事を通して救いへと導かれて行くのだが、その鍵となっているのは御言葉が人を活かす力である。孤独の限界状況で、何か読む物を求めた時に隣室の囚人から「トイレットペーパー」として差し入れられたのは「ルカの福音書」冒頭の数枚だった。反発しつつも読み、祈りを試みる著者に神は答える。圧巻は、少年時代ミッシェン・スクールで歌った賛美歌が不思議に心に去来し、歌詞の聖句（詩篇23篇）を絶望感の中で探す著者が、たまたま開いたギデオンの新約聖書が詩篇付きであったために発見し、「体毛が逆立つ」思いで読み、神の臨在を感じ、「私の全ての問題がついに終わった」安らかな暖かさに包まれる場面だ。全ての出来事を用いてみ業をなされる生ける神、その御言葉が人に新しい命を満たすことをはっきりと見せてくれる。そこからさらに出来事は展開し、驚くべきことに刑務所内の囚人たちにリバイバルが起き、礼拝の集まりが始まり、廃れていた礼拝所に人が満ち、死刑囚全員が信仰に導かれて行くのだ。

なお、御言葉が著者を活かす力を持つ、その背景にミッシェン・スクールの経験があったことは印象的だ。二人の教師の思

い出を「同じクリスチャンでありながら、一人は残酷で、もう一人はとても親切だった」とリアルに描いているが、結局その親切な女教師の体験が、大人となって人生のどん底に堕ちた著者を神さまの御言葉と祈りへと引き戻す。それは『カラマーズフの兄弟』の末尾でアリオシヤが、人間は幼い時の聖なる体験が生涯の支えとなるのだと語る場面を想起させる。幼児や少年を福音で育てることの大切さを再認識させてくれる。

●私たちの時代に希望をどこに発見するかを教えてくれる。

私たちの時代は、希望を見出しにくく、不安に満ちている。本書はそのような時代に生きる私たちが誰でも、真の希望をどこに発見出来るかを教えてくれる。私たちは凶悪犯罪者ではないかも知れない。しかし本書で私たちは自分の姿に重なる著者の姿にしばしば出会って共感を覚える。そして著者が真の希望を持ったように、今私たちの世界に必要なのは、本書が示すような希望であると示される。真の希望を求める思いを胸に本書を開く者に、著者の証しは必ず光を見せてくれるだろう。

（ひろせ・かおる『東京キリスト教学園 東京基督教大学 理事長』  
（新書判・二四二頁・定価一〇五〇円〔税込〕・ヨベル）

一貫して「真のキリストの教会とは何か」を問いかける説教集！  
齋藤孝志著

## キリストの体である教会に仕える エフエソに徹して聴く



小林重昭

『説教は最高の芸術である』（著者）。この『最高の芸術』に、著者が情熱を傾けて取り組んだ作品が本書である。

著者は、「聖書の説教」に命をかける。すなわち、著者は「聖書をして語らしめ、聖書をして神の言葉としての価値を明らかにする。そこにキリストの体なる教会が建て上げられる」と、確信する。まさに、著者が「エフエソ書」に聴き、開かれ、語られたみ言葉を、驚きと感動をもって著したのが本書である。

著者は、四五年に亘り教えた東京聖書学院の働きと、三年の厚木教会での働きを退いた引退牧師である。その著者が、二〇一二年一月三日、七七歳（喜寿）を迎え、「七冊の本」出版するという、とてつもないビジョンを与えられたのである。

本書は、その記念すべき第一回配本である。著者は、三十代で糖尿病を患い、五十年余りの闘病生活を送る。その間、余病（右目失明・左目八回の眼底出血・脳梗塞二回・心筋梗塞）を併発し、右手右足に後遺症が残った。しかし、懸命のリハビリで、歩くことと右手で書くことが可能となる。まさに、本書は満身創痍の著者が、ビジョンに後押しされ、不可能を可能にする

る神を信じ、喜びと情熱の中に生み出された奇跡の書物である。本書は、一貫して「真のキリストの教会とは何か」を問い、その解決をエフエソ書の「教会論」に求める。

本書は、エフエソ「講解説教」と「論文」の二本立てである。本書の構成は、前半が講解説教「キリストの体である教会に仕える——エフエソ書に徹して聴く」であり、後半が「論文」「歴史を形成できる教会——二一世紀の教会像を求めて」である。「講解説教」で先ず興味あることは、著者が、各説教の主

題・構造・関係を、三一論的視点から、あるいは神学的、歴史的、社会的、倫理的視点から述べ、本論への導入としていることである。

〔論文〕「歴史を形成できる教会」は、「二一世紀の教会像を求めて」の力作である。著者自身、二〇世紀の西洋技術文明は、人類に幸せをもたらすどころか、自然と地球環境と人間を破壊し、人類そのものを滅亡に追いやるとの危機感を根底に持つのである。そこで著者は、人間中心主義・理性中心主義から「神中心の文明」を回復させ、平和・共生・成熟を中味とした

世界の歴史を形成できる「教会」造りを目指すのである。

著者は、「教会とは何か」という大問題の定義を、エフエソ一章二三節に見る。「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です」。すなわち、著者は「教会とは、キリストを頭とするキリストの体であり、人が神と出会う場である」と述べる。まさに、宇宙的なスケールをもった巨大な定義であり、地上にしっかりと根を下ろし、具体的な「場」を持った定義である（二六頁）。

そこで著者は、「歴史を形成できる教会」は、「人間の罪によって、混沌としている宇宙、世界、自然、人間の部分と全体の空虚を満たすキリストのからだなる教会である」と結論付ける。

その上著者は、歴史を形成できる教会として不可欠な「聖書神学」を強調する。「複雑化し、多文化化する世界の多様性を生かし、統合できる教会は、聖書六六巻に証しされているキリストが、救済史という形で啓示されている統合的キリストを頭と

する教会でなければならない」（二〇七頁）。「かしらなる統体的、総合的、全体的キリストが、からだなる教会全体に満ち満ちる時に、真に歴史形成が出来る教会となる。そのためにはどうしたらよいか。教会は徹頭徹尾、聖書全体が証している全体的、統体的キリストを学び、理解し、経験し、実践していく必要がある。そのためには、まず教職者たちが聖書全体に啓示され、証しされているキリストをよく学び、よく理解し、よく体験し、信徒の方々にその全体的キリストを伝達していかなければならない。そのためには聖書の説教を実践し、聖書通読、聖書研究に教会全体で取り組むことである」（二六一頁）。

本書は、カトリックの代表的神学者、小野寺功先生（清泉女子大学名誉教授）からの三つの「応答文」を掲載し、その対話は深い洞察に満ち、説教の深みへと導くにちがいない。

（こばやし・しげあき＝川崎ホーリーネス教会牧師）  
（新書判・二三四頁・定価一〇五〇円（税込）・ヨベル）

## 齋藤孝志「著」◆エフエソ書に徹して聴く \*好評発売中！ キリストの体である教会に仕える



真の教会とは何か。キリストの体である！  
「真の教会とは何か」とは何かを提示！本書では「真のキリストの教会とは何か」が一貫して問われており、その最善の解決がパウロのエフエソ書の教会論の中にあることが、強い説得力をもって示されている。この先駆的な著書が、広く読まれ、心ある人の生きる道しるべとなることを心から期待し、推薦の言葉としたい。  
\*ヨベル新書15三四頁・一〇五〇円（税込）

清泉女子大学名誉教授  
推薦のことばと応答：小野寺功

### 齋藤孝志の本

〔決定版〕まことの礼拝への招き  
レビ記に徹して聴く

西満氏先生推薦：大変感銘を受けました。一見難解で敬遠されがちなレビ記の祭儀に示されている福音の奥義が、見事に分かりやすく解き明かされています。  
\*ヨベル新書6・1,050円（税込）

〔決定版〕クリスチャン生活の土台  
東京聖書学院教授引退講演  
「人格の形成と教会の形成」つき

信仰生活の基礎をしっかり建ててあげるクリスチャンの5原則を語り手の名手が平易に、ストレートに、懇切に解き明かします！\*ヨベル新書6・1,050円（税込）

無限の価値と可能性に生きる  
使徒言行録全説教

小野寺功氏書評：齋藤師の本『全説教』は、…そのすべてを自己の問題として受け止め、教会の「いま・ここ」を踏まえた、現代日本における宣教論がめざされている。  
\*A5判美装・3,570円（税込）

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
\*自費出版の専門出版社\*

教会の負の遺産を繰り返さないために  
岡田 明作、みなみななみ画  
マンガで読む日本キリスト教史  
タイムつち  
なぜ天皇が神サマになったのか



久保木 聡

画期的な本が出版されました。

本書はサブタイトルにあるように「マンガで読む日本キリスト教史」であり、「なぜ天皇が神サマになったのか」について明治以降の歩みをそれぞれ関連付けながら描いています。教会の負の歴史を描いているため内容は重たいのですが、マンガであるがゆえに非常に読みやすい……それがこの本のユニークさと言えます。評者は、教会のこうした政治的な事柄への関心があつても、活字の本となると内容が難しくそうで手が出にくく、歴史上の人物が幾人も登場してくると誰が誰なのか次第にわからなくなり、読む気力が失せてしまうこともある……そんな情けない者ですが、本書は楽しく読み進めることができました。

このマンガは、そもそも、雑誌ミニストーリーで連載されたものであり、連載時はA4判で計四九ページでしたが、このたびA5判で百数十ページとなり、コマ割りやセリフが加筆・修正され、雑誌連載時よりも、さらに読みやすいものとなっております。また、このたびの再編成で次のページをめくりたくなくなるワクワク感が増したことは嬉しい限りです。その意味で、ミニス

トリー誌上ですでに読んだからと手に取らないことはもったいないことだと思います。日本の出版物の三分の一はマンガと言われていますが、キリスト教書はそれに比べればマンガが少なく、活字離れた若者に届くことが難しくなっています。しかし、本書は伝えるべき内容の豊かさだけでなく、同時にエンターテイメントとして楽しんで読めるマンガとしても、若者たちにも十分に届く作品となっています。

明治天皇の御真影成立までの変遷など、ビジュアルに訴えるマンガだからその伝達力はまさに圧巻。君が代の成立についても、曲は幾バージョンもあったとか、歌詞も二番まであるものがあつたとか、かつて君が代は讚美歌に収録されていたとかこの辺は日本に生きるキリスト者として押さえておきたいところです。さらには歴史的な経緯を踏まえながら、天皇教、靖国神社は明治時代に創られた新興宗教であることなどが論述されます（読者が同意するか否かはさておき、この論述は必読です）。また天皇が神となる新興宗教は学校教育によって植えつけられていったという指摘は現代の学校教育を考えていく上でも忘れ

てはならないものと言えるでしょう。

加筆されて、コラムも加わり、内容もさらに充実しました。読者への質問もいっぱいあるのですが、その質問の答えを本書の中で見出すことができます。正直、これにはすっきりしないものが残りました。とはいえ、この本一冊ですべてがわかった気になるのではなく、あくまで学び始めるきっかけを提供している、ということのようです。本書をきっかけにして自ら学んでみたり、読書会を開いて意見交換してみても良いでしょう。「歴史は繰り返す」と言われ、ナショナリズムの興隆を見せる現代日本において、この負の遺産を繰り返さないためにどうすべきかを私たちは問われている、ということをおぼわされています。

キリスト教書の出版事情によるものですが、本書の価格が二千円（税抜）。セキュラーのマンガなら、このページ数だと五百円前後でしょう。若者が自ら買うのは厳しいな、と思います。

**キリスト新聞社の本**  
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

▶名作映画からアメリカまるわかりガイド!

**シネマで読むアメリカの歴史と宗教**  
栗林輝夫、大宮有博、長石美和◎共著  
アメリカの「舞台裏」を覗けば、世界に誇る大國の本当の姿がわかる! 話題のクラシックから現代映画を通して、アメリカ合衆國の誕生と軌跡をわかりやすく解説!  
■A5判・204頁・2,520円

好評発売中

▶イラスト満載でわかりやすい! 求道者必携!

**教会では聞けない 21世紀 信仰問答 I**  
上林順一郎◎監修 かびばら◎マンガ  
『キリスト新聞』「教会質問箱」の単行本化。日常の教会生活や社会生活の中で直面する素朴な疑問や悩みにQ&A形式で専門家が助言。  
■四六判・134頁・1,890円

好評発売中

まずは基礎編

**キリスト新聞社**  
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51  
和光プラザ2階  
TEL. 048-424-2067 (価格は税込)  
E-Mail. support@kirishin.com  
URL. http://www.kirishin.com

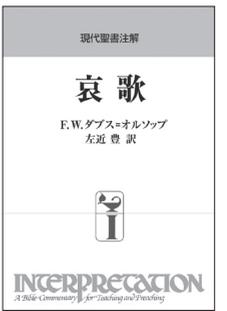
しかし、『本のひろば』を読む皆様なら、これまで本誌で紹介されるような七千円〜八千円する神学書を買う方々もそれなりにおられるでしょう。ぜひ、マンガ好きな知人にプレゼントしてみてください。若者にどんなキリスト教書をプレゼントしてよいか悩んでいる方々にも、おすすめの一冊です。

(くばき・さとし)日本ナザレン教団鹿児島キリスト教会牧師  
(A5判・一六二頁・定価二〇〇円(税込)・キリスト新聞社)

都市滅亡の惨禍と神の沈黙に対する信仰を伝える

F・W・ダブス・オルソップ著  
左近 豊訳

現代聖書注解 哀歌



小友 聡

現代聖書注解の『哀歌』が刊行された。原著者はダブス・オルソップ。二〇〇二年に出版された注解書である。今回、左近豊先生のすぐれた翻訳によって読めるようになった。哀歌は、ご承知のとおり、紀元前五八六年のエルサレム陥落という、旧約時代において最も悲惨な歴史的破局の出来事を証言する詩文である。たった五章だが、旧約文書の中で最も凄惨で陰鬱な内容の書として知られている。その哀歌を注解した著者ダブス・オルソップは原著出版の直前、二〇〇一年九月一日二日ニューヨークで起こった同時多発テロの惨禍を目の当たりにして、序文を書いている。すなわち、二千数百年前に歌われたこのイスラエルの詩文が時を超えて、今なお私たちに強烈なメッセージを伝える、と。

ダブス・オルソップは日本ではあまり知られていないが、米国プリンストン神学大学院准教授である。主として哀歌や雅歌などヘブライ詩文の研究で多くの著作や論文があり、本シリーズの哀歌注解を執筆するにふさわしい中堅の旧約学者である。すでに『日本版インタープリテーション』79号『雅歌』（二

〇一〇年）に「美の喜びと雅歌四章一―七節」という彼の論文が掲載され、美学的な視点で雅歌詩文が見事に分析されている。本書においてもダブス・オルソップは哀歌のテキストを文献学的に詳細に論じ、古代オリエント学や考古学の知見を取り入れて、現代の読者に訴えるべく哀歌の文学的な読み取りをしている。

本書におけるダブス・オルソップの哀歌解釈の特徴は、まずメソポタミアの都市滅亡哀歌のジャンルに属するものとして哀歌を捉えている点である。第二の特徴は、アルファベット詩の美学的／文学的な分析である。哀歌詩文の行頭は、ご承知のとおり、ヘブライ語のアルファベット順に並べられている。この文学的効果と意義について本書では詳細な分析がされる。さらに、詩文の隠喩や言い回し、言葉遊びの分析も見事と言うほかない。哀歌が自然な感情のほとばしりに留まらず、実は「考え抜かれた芸術の産物」なのだ、ということをおの注解書でしみじみ味わうことができる。

本書の第三の特徴は、哀歌の神学的な分析である。ダブス・

オルソップは神義論を拒絶する反神義論について論じている。

哀歌の悲惨な現実、イスラエルに「もし神が全能であるなら、なぜ人の苦しみがこの世にはびこっているのか」という神義論的な問いを突き付ける。これは、二一世紀、いわゆるホロコースト以後の世界の深刻な問いでもある。けれども、哀歌では神は紛れもなく「敵」として隠喩化されており、その抑圧的な神の表現は神義論として哀歌を読むことを決定的に阻む。それにもかかわらず、このような反神義論的感性が哀歌を理解する場合には必要である、とダブス・オルソップは指摘するのである。これは二一世紀初頭を生きた私たちには重要な問いかけであって、極めて示唆に富んだ指摘である。

もう一つ、哀歌における希望について著者ダブス・オルソップが書き記していることが印象深い。哀歌には希望があるだろうか。哀歌には一貫して神の沈黙がある。けれども、この沈黙は希望に満ちていると説明がされる。それは安価な希望ではな

く、高価な希望と言ってよい。信仰とはまさしく「神の沈黙に対する信仰」であることが哀歌から読み取れる、と著者は説明している。心を揺さぶられる説明である。

本書の翻訳は信頼できるものである。訳者の左近豊先生は、著者ダブス・オルソップの指導の下で哀歌に関する博士論文を書き、学位を取得された。この著者が哀歌について、どのような方法論で、どう考え、どう説明しようとしているかを訳者は知り尽くしている。的確な文学的表現を駆使し、流れるような日本語で訳されている。うってつけの訳者が筆をとった哀歌注解書である。米国の2001・9・11以後と日本の2011・3・11以後に旧約の哀歌をきちんと読むために、欠かせない優れた注解書が刊行されたことを心から喜ぶ。

（おとも・さとし＝東京神学大学教授、日本基督教団中村町教会牧師）  
（A5判・二七四頁・定価五六七〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）

**【好評発売中】**  
**よい羊飼いはよみがえられた**  
歴史的楽器で聴くドイツオルガン音楽

演奏：松波 久美子

日本福音ルーテル宮崎教会音楽監督及びオルガンリスト、A.シュニットガー協会日本事務局長。

CD録音時間64分34秒 定価 2,940円

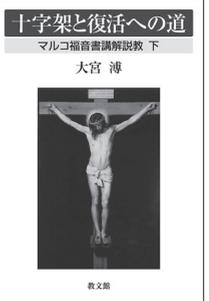
建造三〇〇年の節目を迎えた北ドイツの歴史的楽器（二）ダサクセン・ホルマリエンハーフェの福音ルター派聖ミカエル教会にホーリーが一七二三年建造で、ドイツオルガン芸術の粋ともいべき北ドイツ楽派の至芸を、その源流からじつくりとラツツ、スヴェーリリンク・シャイト、シャイデマン、シュトウルンクの下に学んだ名手・松波久美子が、しなやかに解きほぐしてゆく、確かな伝統と、巨匠たちの比類ない才覚、名器の積み重ねてきた年月が、味わい深い美音となり、教会堂の空気を静かにふるわせ、私たちの耳に、心に、届けられるひととき――。

●演奏会等の詳しいお問い合わせ先  
〒880-0031 宮崎市船塚3-40  
JELC宮崎内 シュニットガー協会日本事務局  
TEL 0985-71-1812 / FAX 0985-24-5438

発売元 LITHON [リトン]  
101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

優しさに満ちあふれた語り口  
大宮 溥著

## 十字架と復活への道 マルコ福音書講解説教 下



松本敏之

本書は、二〇一二年九月に出版された『神の国の福音』に続く「マルコ福音書講解説教」の下巻である。上巻と同じ二九編の説教が収められているが、上巻より十数頁短くなっている。本書は一九九八年のものを中心として、他の時代のものや最近のもの（最後の二編）を加えて、一冊となっている。年代的には幅があるが、著者として最も納得のいく説教を選ばれ、加筆修正されたのであろう。文体もそろっており、違和感はない。

大宮牧師は、日本基督教団東中通教会（新潟）、阿佐ヶ谷教会、成瀬が丘教会の牧師を歴任し、その間、『信徒の友』編集長、世界宣教協力委員長などを務められた。現在も日本聖書協会理事長他の要職にあり、文字通り、日本のキリスト教界をリードして来られた方である。

私は、大宮牧師のもとで訓練を受けたと願い、神学校の最終学年を阿佐ヶ谷教会で過ごしたが、不思議な導きにより、そのまま三年間伝道師として働くこととなった。それは、私にとってかけがえのない貴重な経験であった。そこで牧会の基礎と共に、「どのように説教をするのか」という最も大事なことを

大宮牧師から学ばせていただいた（もちろん今でも彼のような説教はできないが）。

さて大宮牧師の説教の特徴を幾つかあげてみたい。

第一に、当然のことかもしれないが、神学的基盤がしっかりしている。その拠って立つ所は、ルター、カルヴァンなど宗教改革者からカール・バルトにいたるプロテスタント神学の本流である。それゆえに、どの説教もよい意味で安心して聞く（読む）ことができ、福音の核心に触れることができる。

第二に、引用が多様で、古典から現代神学まで縦横無尽である。それらは著者の膨大な量と高い質の読書に裏打ちされ、教養の高さがあふれ出ている。キルケゴールやオットー、パスカルあたりまではそれなりに読んでいる牧師も多いであろうが、大宮牧師の説教では、それらに加えて、ダンテ、シエイクスピア、ゲーテなどの文学がしばしば登場する。それらは著者の血となり肉となったものであると、どの引用も適切で、取っつけた感じがしない。例えば、以下の文章である。

「ダンテの『神曲』の「第三部」で、ダンテが自分を地獄界煉獄界を通じて導いてくれたヴェルギリウスに別れを告げて、愛するベアトリッチェに導かれて天堂界に入ります。そこではベアトリッチェが目を太陽に注いで立っています。彼はベアトリッチェを見つめることから、ベアトリッチェが見つめているものを見るようになり、天を仰いで共に天への旅に登って行きます。ここには神への愛が人間の愛を高め潔めることが示されています」（一四一頁）。

また讚美歌の引用も多く（三回）、ヘンデルの「メサイア」やバッハの「マタイ受難曲」からの引用もある。「メサイア」を聞きつつ、「ふと『こんなに幸せなら、今死んでもよい。死んでも恐ろしくない』という感じがしました」と、てらいなく語られるあたり、ある意味で大宮牧師らしいと思つた。

第三に、右記のことから想像できるように、その説教は高尚であり、エレガントであるが、それでいて、「上から目線」で

はなく、謙虚である。「偉い先生」の説教を聞いたり読んだりすると、何か緊張を強いられ、叱られているような感じを受けることがあるが、大宮牧師の説教は、全くそういう感じがしない。著者の優しい人格がにじみ出るのである。

第四に、射程が広く、これもまたよい意味でバランス感覚がある。右にも左にもおれない。教会の礼拝には、当然のことながら、いろいろな人が来る。大宮牧師の説教は、社会のエリートのような人の悩みにも十分応える内容である（例えば三六頁四行目以下）と同時に、ごく普通の人にも分かりやすい。ぜひ多くの方に読んでいただきたい説教集である。

（まつもととしゆき）日本基督教団経緯緑岡教会牧師  
（四六判・二四四頁・定価一九九五円（税込）・教文館）

**聖書学 古典叢書**  
編史的の方法の先駆  
ローマイヤーが著した  
古典的名著を本邦初訳!

**ガリラヤとエルサレム**  
復活と顕現の場が示すもの  
E・ローマイヤー 辻学 訳

第3回 記本

復活したキリストの顕現した場《ガリラヤとエルサレム》に注目し、マタイとマルコは「ガリラヤ」ルカ（福音書、使徒行伝）が「エルサレム」としたことの意味を追究する。

AS 5判 上製・160頁・3150円

慰めの存在である教会が語る言葉

**キリストの教会はこのように  
葬り、このように語る** 加藤常昭

キリストの教会はこのように葬り、このように語る

キリスト教の死と葬儀の意味を聖書と歴史に立って語る。さらに、11の前後の祈り・葬儀で語った言葉を取録。慰めの共同体の姿が鮮やかに浮かび上がる。教会の葬儀を知るために。

四六判 並製・222頁・2980円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格税込)  
<http://bp-uccj.jp>

書簡から隣人愛の教父に触れる  
アウグスティヌス著  
金子晴勇訳

アウグスティヌス著作集別巻Ⅰ、Ⅱ  
書簡集(1)、(2)



出村和彦

一九七九年に刊行が始まった『アウグスティヌス著作集』もあと三冊で完結される。今回その別巻として、比較的重要な手紙一〇一通(アウグスティヌス宛のマクシムスの手紙一通(書簡一六)を含む)を収録する二分冊の『書簡集』が刊行されたことよって、『著作集』の価値はさらに高まった。

アウグスティヌスの書簡は、発信受信とも彼の生前からコピーされ大切に保存されていた。ヒッポの彼の手許に残されたその集成は、彼自身が最晩年に編集した上で残すことを企図していた——題はそのとき付けられたものかもしれない——が、十分果たされぬまま、彼の手を離れて流布したものも含めて、アウグスティヌスが書いたもの二五二通、彼に宛てられたもの四九通、彼の知人が第三者に宛てたもの七通の総数三〇八通が見出され、番号が付けられている。今回訳されたのはその約四割に当たる。第一部、ミラノでの回心直後(三八六年)からヒッポの副司教就任(三九五年)まで、第二部、司教就任(三九六年)から西ゴート族によるローマ攻略(四一〇年)まで(以上別巻Ⅰ)、第三部、カルタゴ協議会(四一一年)からペラギ

ウス派論争を経て彼の死(四三〇年)に至るまでの手紙が執筆年代順に並べられ、別巻Ⅱの最後には、第四部として、一九八一年に発見された二九通の新書簡、いわゆる『デイヴジャック書簡』(P・ブラウン『アウグスティヌス伝』教文館、下巻「エピローグ」を参照せよ)からも六通が収録されている。

ここに収められた書簡は、同じ時期に書かれた著作の理解を深めるのに大いに役に立つ。たとえば、親友ネブリデイウスに宛てられた一連の手紙(書簡三、四、七、九―一四)からは、『プラトン主義哲学をめぐる若きアウグスティヌスの精神的発展をたどることができ興味を尽きない。また、書簡一七四は『三位一体』の完成についての複雑な事情を明らかにし、新書簡一Aと新書簡二は、『神の国』の読解の手引きともなっている。また、彼の生きた古代末期の教会を取り巻く社会状況を知るための第一級の史料である。教皇イノケンティウスやケレスティヌス宛の書簡一七五、一七七、二〇九やアレクサンドリアの司教キュリロス宛の新書簡四は、当時の外交シーンを浮かび上がらせる。最も長大な書簡九三「異端者に対する力の強制につい

て」は皇帝によるドナティスト鎮圧令が発せられ実施された経緯を知る重要な文書である。さらに、富裕層(書簡二二六、一三〇)や権力者(書簡一八九、二二〇)に対する勧告では富や欲望に対するアウグスティヌスの態度が如実に示されている。アウグスティヌスの書簡には論文との相違のないものも多い。とりわけ、ペラギウス論争とその後のいわゆるセミ・ペラギウス論争(ただし、この用語は後代のもの(Ⅱ三二頁参照))において、書簡一四五「律法と恩恵について」、書簡一八六「ペラギウス主義について」、書簡一九四「恩恵について」、書簡二二七「ペラギウス主義について」は、『著作集』での種々の論考の論点をよりコンパクトに明確にしたものとなっている。原典の難読箇所等が注記された上での翻訳は概して読みやすく、各書簡には、最新の英訳等の研究成果を反映した解題が付されて内容の理解を助けている。「書簡に刻まれたアウグスティヌスの姿は、さまざまな難題に心を込めて取り組んでいる牧

会者のそれです。この書簡集によってわたしたちは『隣人愛の人アウグスティヌス』に直接触れることができます。実に文体まで相手のことを慮って微妙に変化しています。しかも若いときから老年に至るまで書き続けられていますから、わたしたちも一生涯にわたってこの書簡集を手許に置いて伴侶とすることができそうです(「訳者あとがき」Ⅱ四六四―四六五頁)という示唆は、書簡一八五「ドナティスト批判」(『著作集』第九巻所収)の翻訳以来、二八年間の長きにわたって書簡翻訳に注がれた訳者の愛情がなせるまさに至言である。今こそ教父の味読が求められている。

(でむら・かずひこ)岡山大学大学院社会文化科学研究科教授

(A5判・I) 三三四頁、定価五四六〇円(税込)・教文館

Ⅱ 四九六頁、定価六三〇〇円(税込)・教文館



べてるな人びと

やんむ とぅ うか かつふいーな  
(第3集)

向谷地生良  
Ikuyoshi Mukaiyachi



幻覚&妄想大会!?  
精神科医をやめて  
参加したくなってきた!  
香山リカさん推薦!!

〈べてるな対談〉三本立ても!  
\*辻信一×高橋源一郎×向谷地  
\*野澤和弘×向谷地  
\*大澤正幸×向谷地

四六判・上製  
定価 1,890 [本体1,800+税] 円  
ISBN978-4-86325-041-3



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト教教育に触発された魂の軌跡を記す物語  
塩野和夫著

## キリスト教教育と私 前篇



中根広秋

人が自らの半生を語る契機は何であろうか。著者は「あとがき」の中で、ある同僚の「問いかけ」を挙げている。すなわち、闘病を続けながら「研究と執筆活動に専念」する同僚の「執筆活動に打ち込むという気迫」が「問いかけ」となり、それに応えるように書き始められた、と。また、「序」の中では、「戦後という特色を刻んだ時期」が「過去になろうとしている」ことを挙げ、「キリスト教教育によって導かれ育てられた」者として、「戦争の痕跡という特色を帯びた時期にあつてキリスト教教育は一体何であつたのか」という問いに対し、「一研究者として」ではなく、「一人の時代の証言者として（中略）答えていこう」とも記している。

本書はそのような問いが契機となつて生み出された「戦後のキリスト教教育を担った人々と彼らに触発された若い日」著者の「魂の軌跡を記す物語」である。  
本書の「舞台」は七〇年代初頭までの大阪である。幼年期、児童期を経て同志社香里中学校・高等学校に学び、教会に導かれ受洗に至るまでが取り上げられている。

はそういう厳しいものや。和夫には一度、お父ちゃんの仕事場を見せてやりたい！

息子はこのような父の言葉を励ましと受け止め、父の姿とともに心に刻みつける。そして、後年牧会者として最初の教会に着任する折にも、仕事場に向かう父の姿を夢に見るのである。

いま一つは、生島校長の「自律の精神」を重んじる「教育方針を盾に取」つてチャペルを欠席する生徒が増える中、なおも自主的な出席を呼びかける校長の「苦悩」に共感し、高校生の著者が激しく心揺さぶられる場面である。《教育とは所詮、一つの魂が一つの心を揺さぶり動かすことに他ならない。》——これは生島校長の言葉だが、その時以来、教育の根源を問うこの言葉が「苦悩に歪んでいる」その人の表情とともに著者の胸に深く刻まれていくのである。

挿絵の魅力についても触れておきたい。全部で十九枚の挿絵及び五枚の手書きの図はすべて著者自身の手によるものである。

著者は出会った〈忘れ得ぬ人々〉の姿とそれらの人々との関わりの中で模索しつつ成長する自身の姿を細やかに、また慈しむように描いていく。駆け落ちで結ばれ、誠実に生き、著者たちを育んだ両親。同志社香里中高設立に寄与し、著者を同校受験へと導いた柴田勝正氏。著者を温かく見守り、助言を惜しまなかつた生島吉造校長をはじめ、多彩な同志社香里の教師達。その他、さまざまな登場人物との交わりを描くどの場面を切り取つてみても、子どもが、あるいは少年が捉えた真実がみずみずしく語られる。また、それらの人々の姿が魂の風景の一部となつて著者を支え続けていることが示される。

二つの場面を例として挙げたい。  
一つは、少女Mとの文通を断念し、彼女の手紙をすべて燃やしてうなだれる高校生の息子を見て父が語りかける場面である。お父ちゃんの仕事はな、紙の仕事やさかい、寒い時でもストーブを焚くことはできひん。暑い日でも扇風機を回すことはできひん。そういう所で、お父ちゃんは一仕事をしている。きびしい仕事や。でもな、どんな仕事でも仕事というの

「書きたくてもなかなか文章では表現できなかったことが、素描には描き出されている」と著者も語っているが、「折々の場面」の人物や出来事などが描かれたそれらは絵本の絵のような魅力を持ち、本文の内容を補っている。また、附録として収められた『一人の人間に』（一九九一年、新教出版社）よりの八つの断章も、本書の登場人物の素描として味わい深い。

本書の各章は著者が勤務する西南学院大学の『国際文化論集』に掲載された。「書き続けている間に、予想もしなかつた反響が周辺で起こり、『前篇』上梓の運びとなつた。『前篇』は卒業式の数日前に生島校長に呼び出され、「キリスト教教育への志を託され」ところで結ばれる。続篇を楽しみに待ちたい。

（なかね・ひろあき 西南学院中学校・高等学校教員）  
（四六判・二四六頁・定価一五七五円（税込）・教文館）

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

今すぐアクセス!

本のひろば ホームページ

<http://www.bunshyo.or.jp>

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人  
キリスト教文書センター  
〒162-0814 東京都新宿区  
新小川町9-1  
TEL・FAX 03-3260-6520

■新教出版社

古代イスラエル預言者の特質——伝承史的・社会的  
的研究

樋口 進著

王国時代、とりわけ紀元前8世紀から6世紀にかけて集中的に出現した「預言」という現象は何だったのか。古代オリエント世界にあっても特異な性格を持つその本質を、本書は、預言者の支持グループに着目しつつ、社会的な視座を採用してその謎に迫った力作である。

A5判・300頁・予価4000円

オランダ人従軍慰安婦の真実（仮題）

マルゲリート・ハーマー著／村岡崇光訳

日本軍占領下のインドネシアで、軍によって強制的に慰安婦とさせられたオランダ人女性たちの声を掘り起こし、彼女たちの人生に起きた事柄を丁寧に聴き取る。自らもインドネシアで育った著者は、元従軍慰安婦たちへの支援と、彼女たちへの補償を求める活動に従事してきた人である。

四六判・160頁・予価1500円

■教文館

旧約聖書文学史入門

K・シユミート著／山我哲雄訳

旧約聖書のテキスト群を時代区分・類型によって文学的に特徴付け、成立過程と相互連関を解明する意欲的な試み。現代旧約学を代表する基礎文献として必読の研究。

A5判・416頁・4725円

『ハイデルベルク信仰問答』入門——資料・歴史・神学

L・D・ビエルマ編／吉田 隆訳

宗教改革の戦いの中から生まれ、教派的・時代的・地域的制約を越えて愛されてきたハイデルベルク信仰問答。その歴史的・神学的背景、執筆者問題などをまとめた、日本で初めて紹介される本格的な研究。

A5判・320頁・3360円

INFORMATION

近刊情報

■日本キリスト教団出版局

信仰生活の手引き 礼拝

越川弘英著

なぜキリスト者は主の日に礼拝に集うのか。キリスト者としての自覚と行動、生活は、礼拝を通してのおのずと形づくられる。礼拝の意味を明確に理解し、意義深く参与するために。

四六判・160頁・1365円

みんなで礼拝 アイデア集

「こどもさんびか改訂版」を用いて

礼拝アイデア集プロジェクト編／飯塚拓也、古賀博、真壁巖、吉岡光人監修

子どもと共に心を合わせて礼拝をささげるためのアイデア集。教会暦や各行事の礼拝で『こどもさんびか改訂版』を活用するための提案、選曲や  
B5判・80頁・1680円

用い方の工夫も添える。

並木浩一著作集 第1巻 ヨブ記の全体像

並木浩一著

旧約聖書は今、私に何を語るのか。この問いに生涯をかけてきた旧約学者の著作集、第一巻。著者のヨブ記論をまとめ、神よりヨブに与えられた新しい視点を鮮やかに浮かびあがらせる。

A5判・338頁・4200円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区宮城1-136 敷島センター17号F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短箱22 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www/seikokai-pub.jp/	netk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisu@kyoshotenjama@bb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yodobara.cs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		ktjordan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs	ochtbok@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emacobs@yahoo.co.jp	

# 福音と世界

2013年9月号

特集1 田中正造没後一〇〇年

正造とアジア……………小松裕

学生と語る正造命……………コール・ダニエル

〈れぼおと〉田中正造大学 編集部

特集2 従軍慰安婦

韓国「戦争と女性人権博物館」

建設を支援する会報告

オランダ人「慰安婦」問題

マルゲリート・ハーマー

インタビュアーリチャード・ポウカム

A5判・80頁・本体571円・〒68円  
年間予約購読料〒共8,016円（消費税込）

## 教皇フランシスコ

マリオ・エスコバル著 八重樫克彦・由貴子訳



日本語で読める初の評伝！初めて尽くしの教皇の半生や人柄、そして現在のカトリック教会が抱える問題を取り上げる。日本語版のみ「先生の思い出」収録。

◎四六判・224頁・定価1470円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
TEL: 03-3260-6148  
FAX: 03-3260-6198

### 編集室から

富士山が世界遺産に登録された。今後、登山者が増えそうであるが、私は十年ほど前に登山を済ませた。その時は五十才になる直前で、体力的には自信があったが、念のため「中高年向きツアー」に参加することにした。これが成功した。

案内書に装備を整えてくださいとあるので、神田の登山専門店に行くと、最新のヤツケ、リュックサック、本格的な登山靴を勧められた。ずいぶん値の張るもので、「素人に高額商品を買わせるつもりか」と腹も立ったが、気弱な私は言われるままに買ってしまった。これが成功した。

いよいよ登山の日となる。ガイドさんから最後に、「無事に帰って来たければ、私の言うことに従ってください」と念を押された。不思議に思ったが、山に無知な私は「必ずそうしよう」と決心した。これも成功した。

つづれ折の坂をゆっくり登って行くと次第にもどかしくなってくる。一気に直登した方が楽じゃないかと思いつつ、ガイドさんの後に着いて行く。休憩になるとガイドさんが「荷物を担

いだまま、立って休んでください」と言う。荷物を下すと、再び担ぐのに体力を消耗するらしい。リュックを下したい気持ちを抑えて、立ったまま休憩した。しかし三回目の休憩の時、事が起こった。メンバーの教人が、荷物を下してしまっていたのである。しかも、四回目の休みの時には、約半数の人が荷物を下し、座り込む事態となった。皆がそうするなら私も座って休みたかったが、「ガイドさんの指示に従う」と決めた以上、荷物を担ぎ、立ったまま休んだ。しかし、そのお陰で最小限の疲労で富士登山を終えることができた。登山専門店を買った高価な装備が功を奏したことも言うまでもない。安価なビニール合羽を着た人は、体が蒸れて下着を濡らし体力を消耗してしまっていたのである。

人の言うことを無批判に受け入れるのは危険であるが、とはいえ専門家の言うことは一応聞いておいて間違いないと思った。

(寺田)

画像と象徴を  
読み解くために



**教会の読み方**  
教会や象徴は  
何を意味しているのか  
R・テイラー 竹内一也 訳

● 2,200円

## 「教会」の読み方

ステンドグラスに描かれている人物は誰か？ 教会内部はなぜ現在のよう配置になったのか？ 「おとめマリヤ」「聖人」「旧約聖書」など項目別に、教会堂に秘められた「謎」に迫る。装飾や色、聖書に見られるシンボルをイラストつきで紹介した入門書。

# 民衆と歩んだウエスレー

清水光雄



18世紀英国でメソジスト運動を指導し、伝道活動を行うとともに、医学書の出版や無料診療所の設立、病人の訪問活動、貧困者のための無利子ローンの企画など画期的な社会支援活動を行ったウエスレー。魂のみならず、体も含めた人間全体の救いを考えた彼の思想と生涯から、今日の私たちの信仰と生き方を問い直す。

清水光雄

『メソジストって何ですか』ウエスレーが私たちに訴えること

W・J・エイブラハム著 藤本満訳

● 1,995円

『はじめてのウエスレー』

A・ルシー編 坂本誠訳

● 2,940円

『心を新たに』ウエスレーによる「日章」

# 教会づくり入門

榎本保郎



無力で弱い「ちいろば」の群れが、フシギな力を発揮してつくり上げた教会の物語！ 多くの人々に敬愛された熱血牧師による人気エッセイ。

● 1,260円

# 詩華集 聖書の女性たち

日本キリスト教詩人会編

● 1,785円



聖書の女性たちを写す19名の競作。旧・新約聖書に登場する、光と陰の物語を背負ったさまざまな女性群像に光を当てて。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549  
本のご注文は (e-shop 教文館) へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198  
ホームページ : <http://www.shinkyō-pb.com>

歿後5年、待望の単行本化

# イエス・キリストの生涯

小川国夫 著 / まえがき 加賀乙彦、解説 勝呂奏



カトリック作家小川国夫が、信仰者の眼差しと文学者の感性を通して福音書を丁寧に読み解き、人間の悲惨とイエスの愛を凝視し、自らの信仰告白として語った「小川版キリスト伝」。1985年から86年に連載され話題を呼んだ『福音と世界』の記事。

◆46判・定価1995円

フェミニスト聖書解釈の見事な結実

# いのちの糧の分かち合い

山口里子 著

いま、教会の原点から考える

様々な痛みと生きにくさを抱えている人々に、教会はどんな力と希望を分かち合えるか。今こそ二千年前のイエス運動にさかのぼり、聖書を徹底的に読み直す。新しい発見と気づきに満ちた、興味つきない8つの講演。

◆A5判・定価2310円

▼好評！ 山口里子の本

マルタとマリア イエスの世界の女性たち ◆定価2940円

虹は私たちの間に 性と生の正義に向けて ◆定価3780円

新しい聖書の学び ◆定価1995円



一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇一三年九月一日発行（毎月一回）発行  
本のひろば 第六六八号 二〇一三年九月号

発行所 電話03-3260-6148 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3260-6148 振替0117-0151-2679  
発行人 本村利春 編集人 白田浩一 印刷所 (株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3260-1567

## 渡辺 禎 雄 聖書版画展

生誕 100 年記念・『聖書版画集 くすしきみわざ』出版記念



2013年9月30日(月)~10月12日(土)

お茶の水クリスチャンセンター5階/tギャラリー

11時~18時 (10月6日[日]は正午開場) ※版画作品の一部は販売いたします。

日本の伝統民芸である型染版画の素朴な美と、深く篤実なキリスト教信仰とが結びついて、独自の表現世界を築き上げた渡辺禎雄 (1913-1996)。その生誕 100 年を記念し展覧会を開催します。

主催：いのちのことは社 後援：新教出版社 協力：ギャラリー間瀬

定価七五円(税抜七二円) (〒68円)  
一年分一三〇〇円(送料共)